さざんか

かとう学園　宗像市立河東中学校
学校通信第44号（R6. 1. 15）

新しき　年の初めに　思ふどち　い群れて居れば　うれしくもあるか

～新しい年の初めに気のあう仲間と集まっていられるのはうれしいものです（万葉集より）～

新生徒会専門委員長からのメッセージ Part2

新専門委員長に就任した人たちの意気込みを伝える２回目です。

【　環境委員長 松本 ゆづき さん 】

こんにちは。この度、環境委員長になりました、８年２組の松本ゆづきです。私は気持ちよく過ごしやすい学校をつくるために皆さんの意見を専門委員会で話し合いながら、発信していきたいと思います。教室が綺麗になって過ごしやすい空間になることで、たくさんの人がもっと掃除に関心を持ってくれるようにサポートしていきたいです。私にはまだ足りてないところがあるとは思いますが、これからもっと環境委員長としてたくさんのものを作り上げていきます。一年間、よろしくお願いします。

【　環境委員長 宮井 鉄太 さん 】

今回、新しく環境委員長に就任しました、宮井鉄太です。僕は新しく生徒会役員になって１つの目標を立てました。それは失敗を次に生かす、ということです。今までの自分は怒られたときに、気にしすぎてしまうことがありました。自分は今後たくさんの失敗をすると思います。そんな時にふてくされたり、落ち込んだりするのではなく、その経験を糧にして、成長していきたいです。これから、生徒会をよりよいものにしていくために頑張るので、よろしくお願いします。

【　給食委員長　西牟田 恵愛 さん 】

こんにちは！ この度、給食委員長に就任致しました、西牟田恵愛です。私はこれから、生徒のみなさんが楽しく参加でき、苦手な食べ物をひとつでも減らすことができるような取り組みを行っていきたいです。そして、 みなさんに給食時間を好きになってもらえるように、精一杯努力していきます。まだまだ不慣れで分からないこともたくさんありますが、他の生徒会役員と協力しながら、みなさんが過ごしやすい学校を作っていけたらいいなと思っています。一年間よろしくお願いします。

【　給食委員長 甲木 晴 さん 】

こんにちは。今回、給食委員長になりました甲木晴です。僕は色々な取り組みをして、残食残乳０を目指していきたいです。そして、１日の中で一番楽しいと思えるような給食時間にしていきたいです。また、行事や集会のときは、今、自分が何をするべきなのか考えて行動できるようになりたいです。僕は今までの河東中の良いところは継続していき、悪いところは改善して、今までにはなかった素晴らしいアイデアを出して、みんなが安心して、今まで以上に楽しく生活を送れる学校を作っていきたいです。 一年間一生懸命頑張るのでよろしくお願いします。

少年との約束か、母親の思いか
～「第４回忘れられない看護エピソード優秀賞」より　～

12月から1月にかけて、9年生の高校入試用に面接練習を行っています。9年生は皆、緊張の中で立派な態度でしっかりとした受け答えができています。面接の中で必ず質問することがいくつかありますが、そのうちの一つが「将来どんな職業に就きたいですか？将来の夢は何ですか？」という問いです。その質問に対して、今年の9年生はもちろん、最近の中学生に多いのが、『看護師になりたい』という回答です。自分の幼少期や家族が受けた医療機関での看護が関係していることを話してくれる生徒もいました。また、もしかするとこの数年のコロナ禍やそれに伴う医療報道の影響があるのかもしれません。

毎年、日本看護協会が「忘れられない看護エピソード」というのを募集して賞を授与しています。受賞作を読むと、人間の命の重みや生と死について、あるいは医療の在り方について深く考えさせられます。今回紹介するのは、第4回忘れられない看護エピソード受賞作の中から、優秀賞を受賞された大阪府の三浦ひとみさんの作品です。

題は**『1 分間の面会』**というものです。

『ピッピッピッ・・・。詰所（つめしょ）のとなりの病室で、時々途切れながら心電図モニターの音が響いている。

３０年前、新人看護師（当時は看護婦）だった私は、血液内科病棟に勤務していた。不規則なモニターの主は 19 歳の少年だった。少年は急性骨髄性白血病で入院しており、もう目を開けることも言葉を発することもなかった。

その日、40 歳ぐらいの女性が詰所に飛び込んで来た。「息子に会わせてください」と何度も叫んだ。少年の母親だった。

少年は意識があるころ「僕を捨てた母親にはもう会いたくない。もし、僕を探して面会に来ても断ってください」と言っていた。幼いころ生き別れたその母親が、今、すぐ近くに現れたのだ。

私たちは迷った。病室に確認に行っても、意識のない少年から返事はなかった。息子が生きている間に一目会いたいと願う母親・・・。母親には一生会いたくないと言っていた少年・・・。私たちは、そのどちらの気持ちも踏みにじることはできなかった。』

みなさんが、こういう場面に遭遇したら、看護師であったら、どうするでしょうか。この場の看護師さんたちはそうとう悩んで迷ったと思います。少年のかつての言葉を尊重し約束を守るのか、それとも母親の一目会いたいという切実な気持ちをかなえてやるのか、ジレンマにさいなまれたと思います。そして、ここの看護師さんたちがとった行動は、次のようなものでした。

『私たちは、少年の言葉をそのまま母親に伝えた。そして、白い予防衣とマスクを母親に着けてもらい、「看護婦のふりをして、１分間だけ脈を測って来てください。決して声は出さないでください」と言って、少年の病室に案内した。母親は約束を守ってくれた。震える手とこらえきれずにこぼれた涙が、そっと少年の手首に触れた。１分間の沈黙が続く。その時、少年の指がかすかに動いたように見えた。

それから数日して、少年は天国へ旅立っていった。

30 年がたった今でも、時々あの日のことを思い出して、あれで良かったのだろうか・・・と考えさせられる。』

みなさんは、この看護師さんのエピソードをどう読みますか。昨年、第10回を迎えたこの賞の受賞作はネットで公開されています。どれも感動的な作品ばかりです。関心のある人はいくつか読んでみてください。